

“KANAGAWA” 福祉タイムズ

2004 5 No.630

発行日 2004年（平成16年）5月15日
毎月1回15日発行
発行所 〒221-0844 横浜市神奈川区沢渡4-2
社会福祉法人 神奈川県社会福祉協議会
TEL045-311-1423 FAX045-312-6302
http://www.progress.co.jp/members/jinsyakyo/
編集発行人 平本邦夫
定価 100円（税・郵送料込）
印刷所 株式会社 神奈川機関紙印刷所
昭和27年1月30日 第三種郵便物認可



「子どもの笑顔に支えられ」新任保育士激励会に参加した保育士の石川智美さん(左)と栄養士の佐藤優子さん(右)は、4月から新日本保育園(川崎市)に勤めている。乳幼児期を含めた成長をみていききたいと幼稚園教諭から転進した石川さんは、「笑いかけてくれたり抱きついてきてくれると信頼を感じとても嬉しい。焦らずにゆったり接していきたい」。実習経験から保育園に勤めたという新卒の佐藤さんは、「食の把握は大変ですが、『美味しかった』の一言でまた頑張ろうと思う」と話す。(写真・文 菊地信夫)

あんどる

日本の言葉の中には、同じ発音の言葉でも前後の話の内容で、まるつきり違った感じを受けることがあります。「好い加減」と「いいかげん」。文字で違いを書いても、どちらがどう違うのか分かりません。会話をしている時の言葉の発音が微妙に違うだけでなく、言葉には二つの意味合いがあります。

この「好い加減」を広辞苑で調べてみたところ、前者の意味合いでは、「適当に、よい程あいにく、ほどほどに」と言う解説があり、後者では、「深く考えず無責任なこと、条理を尽くさないこと、徹底しないこと」と記してありました。

本年は、民生委員児童委員の改選期にあたります。新しく任命された委員たちは、必ず一度はいろいろな難問を抱えてスランプに陥ります。私はアドバイザーとして、焦らず、優しく自信を持って「好い加減」に活動するようお話しします。

最近この言葉が、難問を抱えて悩んでいる委員の癒しの言葉になっているようで、「好い加減」の活動が行われているように感じます。「好い加減」の意味を間違えないようににして、よい程あいにくいものです。

県民生委員児童委員協議会

広報委員長 鈴木立也

目次……………CONTENTS

- 「ひらく地域福祉の新時代」のさらなる推進へ……………2・3
- 障害者の在宅就業に関する研究報告公表される……………4
- 県「第三者評価あり方検討会」の報告まとまる……………5
- 県内六割の施設が積極的に中高年を採用……………6
- 長寿社会開発センターいきいきはつらつ……………7
- 連載・つながりをもとめて(2)……………10・11